

中路、耆年之暇暗於說經、望請、被補任件等國讀師、以修御願。然則講讀之任自協格制、修學之輩莫愁身老。謹請官裁者。右大臣宣。奉勅。除和泉志摩飛驒隱岐等國之外依請。

延喜三年六月廿日

延喜十年 庚午 紀元一五七〇

是歲。加賀國の新司、在廳の官人雜任に廳宣を下す。

【朝野群載】 一七

新司宣 加賀國在廳官人雜任等

仰下 三個條事

一、可早進上神寶勸文事。

右件神寶、或於京儲之、或於國調之者、且進上勸文、且可致其勤。又恒例神事、隨守式日殊可勤行矣。

一、可催行農業事。

右國之興復在勸農、農業之要務在修池溝。宜下知諸郡

早令催勤矣。

一、下向事。

右大略某月比也。於一定者追可仰下之。

以前條事、所宣如件。宜承依件行之。以宣。

延喜十年 月 日

長徳四年 戊戌 紀元一六五八

是歲。大和東大寺、加賀國等に於ける諸莊田地の注文を作る。

【東大寺要録】 一八

一、諸國諸庄田地 長徳四年注文定

(中略)

加賀國

幡生庄田二百五十町

(中略)

加賀國

横江庄田百八十六町六段二百步

(中略)

右諸國庄家田地目錄如件。

天喜三年 乙未 紀元一七一五

十二月廿五日。右衛門權少尉源文頼、着欽囚加賀國人高橋金丸役滿つるを以て放免すべきことを勘申す。

【朝野群載】 一九

勘申着欽囚役畢支

合伍人

(中略)

高橋金丸九年廿五  
加賀國人

贓物壹種

准贓布貳端三丈

右壹人。天喜二年十二月廿二日處一年徒者也。格律所限、役以滿畢。宜從放免。

(中略)

以前着欽囚人勘申如件。

天喜三年十二月廿五日

右兵衛權少尉源文頼  
右衛門府生笠 完

康平三年 庚子 紀元一七二〇

四月二十日。内大臣藤原頼宗、加賀國等の封戸を割きて女御藤原延子に讓與するを允されんことを請ふ。

【本朝續文粹】 二〇

請被特蒙鴻慈割分封五百煙讓與女御二位藤原朝臣

延子狀

若狹國廿五煙 加賀國五十煙(下略)

右延子者、先朝聖主之女御、當時齊王之母儀也。梧桐之雲色愁、鼎湖之浪聲咽以來、永出紫微之禁闈、終歸紅塵之俗境、二八廻之星霜雖積、百千行之涕淚未乾。失恃之思莫不悵然。臣仕五代之朝廷、及七旬之暮齡、非武非文、